

二〇二六年度入学試験に向けて

―「学校推薦型選抜（公募・専願）」の「語彙力」試験などについて―

《 社会学科から 受験生の皆さんへの メッセージ ―「語彙力」の重要性― 》

「社会学」を学ぶ際には、様々な社会的事象・出来事をとらえ、さらに人々の意識・感情・価値観を理解し、それらを他の人々が分かるように「言語化」して説明する作業が必要となります。まだ明確に「言語化」されていないことを一つ一つ「言語化」していくという地道な作業には、日本語の運用能力、とりわけでも「語彙力」が必要です。

「社会学」の研究対象には、社会問題・事件から文化・流行・表象・メディアなど、多様な領域が含まれています。そのため、社会学科を志望する受験生の皆さんには、社会の諸領域にまたがるバラエティ豊富な語群（語彙）を、自分の頭の中に蓄えて来て欲しいと考えています。それは、「社会学」のみならず、大学入学後に文化系の専門的学問分野を学ぶ際に、皆さんの強力な武器となります。

「語彙力」を培うためには、高校の教科書や受験参考書などを読むだけでなく、小説や評論やニュース（新聞・雑誌・インターネット記事）から、音楽や映画・演劇の批評などまで、幅広く読むことです。

そして、読み・意味の分からない言葉に出会ったら、こまめに辞書を引いて、一語一語をしっかりと消化し、自分で使いこなすことができる言葉（ボキャブラリー）を増やしていくして下さい。

日本語の「語彙力」は、「社会学」を学ぶ基盤となるだけでなく、英語など外国語を身につけるためにも、また他者に自分の考えを伝えるコミュニケーション能力を養うためにも役立ちます。

これから皆さんが新しく経験していくことを自分自身の糧として、自らを高めていくのに必要な、一つの重要な足掛かりとなるものが、「語彙力」なのです。

《 「学校推薦型選抜（公募・専願）」の「語彙力」試験 出題形式 》

（注意）「語彙力」試験では、次の（１）～（３）のような、三種類のパターンの問題が出題されます。

（尚、ここに示してある〈例題〉は、あくまでも出題形式を理解してもらうためのものであり、これらの〈例題〉が実際に「語彙力」試験に出るわけではありません。）

（１） 常用漢字の「書き」の問題

〈例題〉 次の【 】内の平仮名を漢字に直しなさい。

【びん】入り飲料

- (2) 論文などの公的な文章に用いられる漢字の「読み」の問題
(常用漢字ではない漢字も出題)

〈例題〉 次の【 】内の漢字を平仮名に直しなさい。

【忌憚】の無い意見

答Ⅱ きたん（憚は常用漢字外）

- (3) 慣用句・ことわざ・成句を完成させる問題
(常用漢字のみを出題)

〈例題〉 次の【 】に当てはまる漢字一字を書きなさい。

あしの【 】から天井をのぞく

答Ⅱ 髓

《筆記試験において漢字を正確に書くための留意点》

- (注意) 芸術的に美しく書く必要はありません。
あくまでも「正確に」書く事を心がけて下さい。
筆記用具は、シャープペンシル（HBまたはBの芯）を用いて下さい。
次に挙げる(1)～(5)の留意点は、「語彙力」試験だけでなく、社会学科の
筆記試験全般に共通するものです。

- (1) 字形を崩さずに、「楷書」で書く事。

〈例〉 「口」という漢字を、崩して「〇」と書かない事。

- (2) 「画数」(漢字を構成する線の数)を増減させない事。
線の一本一本をクリアーに書く事。
線が何本あるのか分からないような書き方は×。

- (3) 「曲げ」をはっきり書く事。
線を曲げるべき箇所で、しっかり曲げて書く事。

〈例〉 「貝」の「見」を書き分ける事。

- (4) 線の長短に気を付けて書く事。
線の長さを間違えると、別字になってしまう場合がある。

〈例〉 「未」と「末」を書き分ける事。

- (5) 「しんにょう」・「おおざと」の形に注意する事。
「明朝体」ではなく、「教科書体」(教科書のフォント)の「しんにょう」・「おおざと」
の形を覚える事。